

子育て分野への質問

	意見	区のお考え方
1	「子どもが生まれる前から横断的に支援体制をつくる」というのは喜ばしいことだが、様々な体系の保育施設がある中で、質の確保についてはどう考えているのか説明してほしい。	区では、保育の質の確保に努めるため、区立保育園の園長経験者による施設の巡回指導を取り入れています。また、公私立の園長会等による事例研究や研修の実施、公私立の保育園同士の交流による情報交換などによって、相乗効果で質を高め合っています。
2	10年後の施策の方向性の(2)で、多様な保育サービスの充実とあるが、やはりこれを読むと数を増やすという意味にとれてしまう。数だけでは十分でなく、質の確保が必要なため、質に関する言及をする必要があると思う。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
3	保育園の数についてだが、現状は年齢ごとに保育園を移らなければならず、細切れになっている。一貫して同じ保育園に通えるようになれば、地域や保育士との信頼関係も構築できると思う。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
4	政策課題の中に出てきておらず、気になっているのが中途半端層への対応であり、隠れ待機児童の問題である。一時的に主婦になった方で働きたい層に対する支援については、保育と抱き合わせたかたちで働き方支援を進めてほしい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
5	一時保育に預けたいという人は多いが、予約が取りにくく、予約方法も電話のみのため不便である。様々なところで電子化が進む中、これは早急に改善してほしい。	一時保育については、現在は認可保育園が9か所、認証保育園が2か所、計11か所で一時保育を行っています。ご指摘のとおり需要が高く予約が取りにくい状況となっています。また、各保育施設の予約システムがそれぞれ異なっているため、一元化も困難な状況であり、今後の検討課題ととらえています。
6	児童相談所が東京都から区に移管できるようになったが、現状、目黒区内に児童相談所はなく目黒区の児童相談は品川児童相談所が担っている。今後目黒区内に児童相談所を移管する見通しはたっているのか。子どもを持つ母親が安心して暮らせるよう、早期の設置をお願いしたい。	練馬区を除く22区が児童相談所設立に向け準備を進めています。来年度には、江戸川区、荒川区、世田谷区が先行して開設する予定です。どこに建てるかという立地の問題と、人材の確保・育成という人的問題とがあり、目黒区では具体的な開設時期の目途はたっていません。 現状としては、子ども家庭支援センターに心理職や児童の専門職を配置し、順次増やしており、品川児童相談所等にも職員を派遣しています。 できる限り早く開設したいと思いますが、準備不足で拙速にならないよう、他区に遅れることなく開設したいと考えています。 国では今後5年間、児童相談所を開設する自治体に対し手厚く支援をしていくとしているため、その点も踏まえてしっかりと取り組みたいと思います。

	意見	区の方考え方
7	<p>施策の方向性の5年後の(4)や10年後の(4)については、もっとスピーディに取り組むべきではないか。これは一刻も早く取り組むべき課題だというのが、率直な意見だ。区としての考えを聞きたい。</p>	<p>現在、児童虐待防止の体制が全くできていないかという、そうではないと考えています。品川区の児童相談所は都の施設ではありますが、現在の体制の中でできる限りの連携を取り、対応しています。区として一元的な体制を目指す中では、未だ取組の途上ではありますが、今後できる限り早い段階での体制づくりに努めていきたいと思ひます。</p>
8	<p>10年後の施策の方向性の(4)に「一元的に運用」とあり、これはとても重要な点である。これまでは、児童相談所と支援拠点が一致すれば事故等は防げるという考え方であったと思うが、組織が一つになっても縦割りの壁に阻まれ、そのはざまに落ちることがあるので、「一元的に運用」というだけではなく、こども何か文言を足してほしい。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
9	<p>子どもふれあい広場のような子育てに悩む保護者へのフォローが、虐待などの未然の防止につながるのではないか。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
10	<p>5の新たな政策課題の(3)で、子ども食堂との協働や民間のふれあい広場の整備などが記述されているが、これらの役割を広くとらえれば「子どもの居場所づくり」ということになると思うので、そのような記述を加えるべきではないか。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
11	<p>目黒区では、学童について10年かけて徐々に取り組むという内容になっているが、国の新放課後子ども総合プランの中では、2022年までに放課後待機児童を0(ゼロ)にするとうたっている。目黒区のプランと国のプランの整合性はどうなっているのか。</p>	<p>国では、3年後(2021年度末)に25万人増加、5年後(2023年度末)に30万人増加という目標を掲げています。現状では、区内の学童保育クラブの待機児童が多く発生している状況です。教育委員会と調整しつつ学校内に学童保育クラブを設置したいと考えていますが、目黒区の児童数は1年間で250人ほど増加しており、クラス増・教室増となり学校現場でも苦労している状況です。そういった状況を見極めつつ、国との整合性も考慮して進めていきたいと思ひます。</p>
12	<p>6の施策の方向性の記述で、放課後子ども総合プランの関係について、5年後の姿では「実施可能な小学校から順次実施し」とあり、10年後の姿では「実施可能なすべての小学校で実施し」とされているが、2つの実施状況の差異がわかりづらく、もう少しわかりやすい記述にするべきではないか。</p>	<p>10年後の姿について、「放課後子ども総合プランを実施可能なすべての小学校内で実施」とあるのを、「放課後子ども総合プランを着実に推進」へ変更し、差異を分かりやすくします。</p>
13	<p>心の拠り所としては、学童がその役割を果たしているのではないか。移動学童などもあるが、学童がない地域もある。学童に携わる方へのケアと学童の充実が求められる。学童と地域はすでに近い関係性ができているので、それを生かしていけるとよい。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>

意見		区の考え方
14	児童館の充実と住区住民会議の連携について、児童館が主催する地域との連絡会が有効な働きをしており、この充実を図るのがよいのではないかと。住区住民会議は、青少年への取組に力を入れているところであり、更に幅を広げていくことが可能だと思う。人的に限られたものがあり全てを受け入れるのは不可能だが、投げかけがあればよいのではないかと。子育て支援と青少年育成のセクションが縦割りになり連携しないと重複がでてくる点は留意する必要がある。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
15	子育て支援課等の支援を受けながら子ども食堂を運営している。現在、7団体8つの子ども食堂があるが、来客を断ることもあるほどで子ども食堂のニーズの高さを実感している。絶対的貧困、相対的貧困というだけではなく、子ども達にとって子ども食堂が癒しの場・明日の活力を得る場となっている。この広い目黒区にわずかしがなく、関わる人も少ない。誰でも歩いて行ける場所に子ども食堂のような場ができる事が望ましい。民間頼りでは限界があるため、行政にもそのような場を提供するような具体的な方策を考えていただきたい。見直しはあるか。	区内にある7団体がそれぞれの思いをもって活動していることは承知しています。区としても民間の力に限界があるというのは理解できますが、区立で子ども食堂を運営するのは難しいというのが現状です。地域共生社会の下で、サービスの担い手と受け手が分かれるのではなく、行政としては、互いに支え合う好循環が生まれるような地域づくりや、各団体が疲弊してしまわぬように支援するための施策づくりに努めたいと思います。
16	運営団体が7つどまりになっており、これでは目黒区内をカバーできない。運営団体を増やすための何らかの方策を講じてほしい。	
17	子ども食堂には賛否があり、もう少し議論をしないと広がらないと考える。住区住民会議では他の形で居場所確保や貧困家庭の保護者支援を地域の課題として検討、実行しているところである。地域活動の部署とも連携を図り、一元的な対応をお願いしたいと思う。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
18	貧困とは経済的な貧困のみを指すのではなく、時間的貧困、精神的貧困なども考えられる。食事をしたいのではなく、その場に来ることを通して精神的に支えられるといった話があったが、様々な視点から貧困を捉えるべきだ。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
19	現状把握の中にデータとして貧困に関するものが出てこないが、目黒区といえども貧困について広くとらえて検討する必要あるのではないかと。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
20	シートのどの施策も待ったなしであり、早急に区が音頭、イニシアティブを取り、横断的、一元的に運用体制を整備する必要がある。人、モノ、金の経営資源には困難さが伴うが、遅れることは、大事故と対応の拙劣に直結してしまうので急いで対応すべきである。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

	意見	区の考え方
21	「ネットワーク」と「連携」という言葉が何度も出てくるが、もう一歩踏み込み、「連携」になにか言葉を足すべきではないか。例えば、「ネットワークの構築」だけではなく「区が主体となってネットワークを構築する」といった表現にするなど、区が環境をつくっていくという姿勢が必要ではないか。地域団体がなければ区が主体となって作っていくという作りこみのマネジメントと運用のマネジメントが必要だと思う。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
22	家庭・学校・地域との連携とあるが、現状風通しが悪いとPTAの役員をしていて感じている。様々な視点があり、温度差がある。行政には、連携する目的と意義を明確に可視化・再定義してもらって、実施プランをブレイクダウンしてほしい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
23	共働き世代が増加している中で、子どもを家庭で育てるのではなく「地域が、社会が子どもを育てる」という基本理念・基本目標になっているが、子どもの自立といっても過言ではない書き方ではないだろうか。基本は保護者が子どもを育てるのが、より良い環境だとは思いますが、子育ての補助的な役割として学童などは必要だと思うが、夜間保育に子どもを預け親は仕事でというと、子どもは一人で生きていくというようにも見受けられる。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
24	子育て分野か教育分野にあたると思うが、暴力がない、いじめがない、といった内容もどちらかに入れてほしい。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
25	子どもの人権と言いながら、大人がその内容を理解していないことがある。本当に子どもを守り育てられるような、実態を伴うことが必要だろう。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
26	子ども自身のはけ口が不足しているのではないだろうか。有料サービスでなくとも、そういったはけ口となる環境の整備を自主的にしていくべきではないか。今後の政策の方向性にはそういった視点も盛り込むべきではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
27	子育て分野全般にわたる考え方として、子育ての原点は「家庭」であるという基本的な考え方があるとの認識でよいか。	目黒区子ども総合計画の基本理念に「子育ての第一義的責任者」は「保護者」であるとの基本的な考え方を示しています。